

各分野で活躍する人にインタビュー

輝いています

小学6年生で特許を取得 神谷明日香さん(丈山小学校)

昨年、小学5年生だった神谷さんが夏休みの宿題で作った「落とすだけ！分別ゴミ箱」。投入口に作り付けられた磁石によって、スチール缶とアルミ缶を自動的に分別できます。小学生の特許取得は全国でも珍しく、多くのテレビ番組や新聞・ラジオで取り上げられました。



▲特許証を手に笑顔の神谷さん

◆分別ゴミ箱を作ろうと思ったきっかけは？

通学路にあるごみステーションで地域の人たちが空き缶を分別している様子を見て、いつも「大変そうだなあ」と思っていました。商店を営んでいる私のおじいちゃんも自販機の缶の分別で苦労していたので、もっと簡単に分別できないかなと考えたのが始まりです。

◆磁石のアイデアはどうやって思いついたのですか？

3年生の理科の授業で学んだ、磁石をアルミや木にくっつけてみる実験が記憶に残っていて、「これだ！」と閃きました。

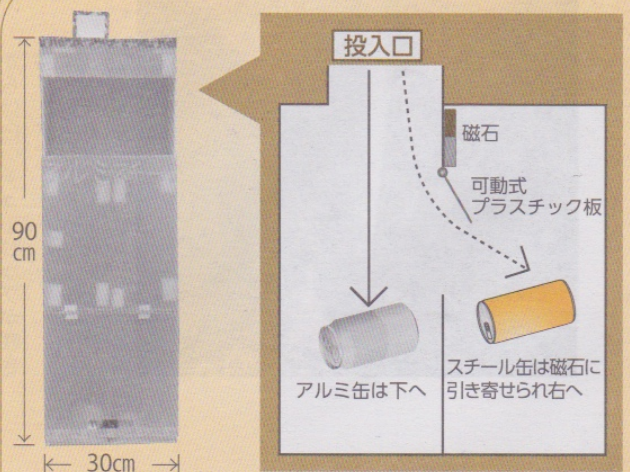
◆一番苦労した点は？

投入口の下に、磁石を貼り付けたプラスチック板をぶらさげてあります。これが長すぎると全ての缶がそのまま真下に落ちてしまい、短すぎると磁石にくっついてしまいます。何回も試作品を作り、やっと一番いい長さが3cmだとわかりました。

◆もともと発明が好きなのかな？

毎年夏休みの宿題として発明品を作っているけど、いつもギリギリまでアイデアが浮かばなくて、「どうしよう！夏休みが終わっちゃうー！」って焦って作る人が多いです。今回も、「うまくいかないなあ...」ってソファに寝転がりながら、試作用に磁石を付けた定規で缶をくっつけて上

分別の仕組み



下に振って遊んでいるときに、この仕組みを思いつきました。

◆家族は特許取得を喜んでくれましたか？

ゴミ箱作りを手伝ってくれたパパをはじめ、みんなとても喜んでくれました。おじいちゃんも「すごいね」と言ってくれて嬉しかったです。「汚れちゃうと嫌だから」って、この分別ゴミ箱はまだ使ってくれていません(笑)。

発明のヒントは、私たちの身近にあります。神谷さんの特許取得をきっかけに、たくさん子どもたちが活躍してくれるとうれしいですね。